



月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

2020

3

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし 4

会員雑詠集「無人駅」 9

■例月句会結果■

おかじょうき川柳社2月例句会 19

十和田たてがみ川柳会 1月句会報 30

川柳吟行会「ほ」 渡邊こあき 28

■作品鑑賞■

—奈良一艘がとことん深読み—

「深艘心理」 奈良一艘 8

Infomation 33～

「無人駅」抄

カンテラ

おかじょうき川柳社代表 むさし

今、世界を震撼させている新型コロナウイルスと肺炎のことを少し。

報道によると感染者も死者も日に日に増えて、国内でもついに死者が出た。

防疫も、治療も予防も、対策の全てが後手に回っていて、この先が心配になる。

一体、日本という国の伝染病に対抗する力はどれくらいあるのだろうか。

このままでと「COVID-19蔓延のため東京オリピックは中止」なんてことにならないとも限らない。

引きつったまんまで夜を刻んでる

熊谷冬鼓

満天の星だちくちくしてるもの

きさらぎ彼句書

自転車を手で挙げていますから

岩根彰子

岩根彰子さんは、力持ちなんですすね。華奢な方だとばかり思っていました。で、何のために「自転車を片手で」持ち「挙げて」いるのでしょうか？特殊なトレーニングかもしれないと思つて、この句の次のシーンが見たくなり「無人駅」を読み返しました。この句の次の句は「刃毀れと笹掻き牛蒡に挟まれて」。念のため前の句を見ると「挨拶が御座なり骨のない梢」。どうやらトレーニングとは関係ないらしい。何はともあれ自転車を手で持ち上げている女性がいたら、その方が彰子さんということですね！承知しました。

B群

思つても仕方ないことすりガラス ひとり静
宿題はやっただし雨乞いはしたし 葉 閑女
かかる世の大つごもりの逢瀬かな 吉田州花

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

哀しくて悔しいほどに良く眠る 安藤なみ
鏡見た山姥がベソかいている 向山タエ子
つり橋ゆらり嫌味な奴と言われても まきこ
えんぴつを削りつづける発芽まで 村上てる
そろそろ土にかえてもいいですか 田中 薫
さようなら焚き火の薪が切れました 斎藤泰子
どうしよう貰った年の置き所 高橋星湖
ずっと先まで凍えてしまふ夜だった 勤右衛門

異端者になるまで本を積み上げる 月波与生
湯たんぽを抱き三角屋根に棲むモグラ 笹田隆志
局部的システムダウン栗最中 小野五郎
北極星君もポツンと一軒家 柳谷たかお
むかし海だったところに置くピアノ 守田啓子
月光の雫がたまるペンの先 吉見恵子
頬杖を貸してくれたら考える 辻井洋子

辻井洋子さん、「頬杖」つて借りられるの？ネット検索してもそんな職業はなかったので、洋子さんにだけ個人的に貸してくれる人がいるってことですね。洋子さんに「頬杖」を貸してくれる人ってどんな人だろう。洋子さん！借りた「頬杖」突いて何を考えるの？

C群

コンビニのトイレを借りたナキウサギ 鳴海賢治
返します うぶ毛の中の未来まで 米山明日歌
おっちゃんのバルサミコ酢的股間 奈良一穂
アヒージョがしょう油顔って知ってるか 夏草ふぶき

鳴海賢治さん、「ナキウサギ」をご存知でしたか。広辞苑第七版を引くと『なき・うさぎ【啼兔】①ウサギ目ナキウサギ科の哺乳類の総称。1属30種。アジア東北部とロッキー山脈西部の草原や岩山に分布。②①の一種。キタナキウサギ。シベリアから北海道にすむ。頭胴長15センチメートル、尾はほとんどない。毛色は茶褐色で、耳は小さく、モルモットに似る。「ち、ち」と小鳥のような声でよく鳴く。巣穴に夏の間に草を貯え、冬を過ごす』と出て来ます。日本では北海道にしか住んでいない兎で、青森県にはもちろんいないし、私は一度もお会いしたことがない。「ナキウサギ」は比喩でしょうからそんなことはどうでもいいのですが、「ナキウサギ」って「鳴く」から「ナキウサギ」なんですよね。コンビニのトイレから「ち、ちち」と鳥のようでそうでない鳴き声が聞こえたら店員もお客さんも大いに驚くでしょうね。それにしても、コンビニでトイレを借りるなんて、なんて行儀のいい兎でしょう。で、この「ナキウサギ」についてもし

の酢より酸味が優しくまろやかで、芳醇な香りと酸味の中に濃厚な甘みを感じられます。この甘みは(途中省略)濃縮果汁から作られることや熟成期間が長いことが関係しています。』とありました。これなら分かる。一艘さんの股間って、70年以上も熟成されているので優しくまろやかな酸味があつて、しかも、芳醇な香りと濃厚な甘みがあるってこと?ムムム、ナンノコッチャ。これは偽装です!詐欺です!

夏草ふぶきさん、私は「アヒージョ」という食べ物があると聞いたことはありませんが一度も食べたことがありません。「しょう油顔」は、何のことやらとんと分かりません。ましてや「アヒージョがしょう油顔」だなんて思いもしませんでした。で、調べました。広辞苑第七版に「アヒージョ」は『ajillo スペイン】ニンニクを入れたオリブ油で魚介や野菜を煮たスペインの小皿料理』と載っていました。でも、「しょう油顔」は広辞苑に載っていません。ネット検索したら『日本人らしい、すつきりした顔立ちの男性を表現する言葉』(ピクシブ百科事典)とあつてびつくり。「アヒージョ」を食べると「しよ

かしたら賢治さんのこと?ち・ち・ちちち…(汗)

米山明日歌さん、心の中はもちろんのこと爪の先から「うぶ毛の中」まで未来が詰まっていたの?すごいな。で、何でそんなにあつた未来を返すの?どこに返すの?前途洋々の未来じゃなかったの?誰に返すの?どこにでも誰にでもいいから「未来」というものを全部返してしまつてこと?未来って、生きていけば次々やつて来て、あつという間に現在になり過去になるんだけど…。あれ?「今」を生きてさえいけばそれでいいってこと?それとも、もつと違う未来を見つけようってこと?あくあ、質問し過ぎちゃった。

奈良一艘さん、句の「おつちゃん」って、もちろん一艘さんのことですよ。でさ…、「股間」が「バルサミコ酢的」ってどういうこと?「バルサミコ酢」を広辞苑第七版で引くと(あ、いつも広辞苑第七版でスママセン…)『イタリアの高級醸造酢。ワイン・ビネガーの一種。熟成期間が長く、黒みを帯びる。』と書いてあつて、どんな味とか、どんな匂いがするとか私の知りたいことが書かれていません(汗) インターネット検索したら『他

うゆ顔」になれますか?

須藤しんのすけさん、この句は、私の脳ミソではコンディションが相当よいときでも解説できそうにありません。でも、なぜかこの句が気に入りました(泣) だから、ぼつぼつ調べます。まず、「乱歩」。これは江戸川乱歩だね。広辞苑第七版に『アメリカの作家ポー (Edgar Allan Poe) に因む筆名) 小説家。本名、平井太郎。三重県生れ。早大卒。「二銭銅貨」「人間椅子」などを書き、日本の探偵小説の基礎を築いた。ほかに「陰獣」「蜘蛛男」、評論集「幻影城」など。(1894～1965)』と出て来ます。ナヌ!語釈に「人間椅子」って書いてあるじゃないか。「乱歩の椅子」ってこれだね!ウイキペディアで「人間椅子」のあらすじを読んだら、人間が中に隠れている椅子のことやたらにおもしろそう。で、この小説の中に「黒」という名前の猫が出て来るんだね。あれ?違うの?うううう、ミステリアスな句ですなあ…。ニヤオ!

深読み心理

ひとひとり見送るこのフランシスコザビエル

土田雅子

(おかじょうき1月号より)

フランシスコザビエルはご存知の通りカトリック・イエズス会の宣教師。1549年に初めて日本にキリスト教を伝えたことで有名である。

作者がクリスチャンなのかそれともお亡くなりになられた方がクリスチャンだったのかは存じあげないが、いずれにしてもキリスト教では「人は亡くなれば神のもとへと召される」のだという。

掲句のフランシスコザビエルは亡くなられた方の昇天を象徴するメタファーと理解するのが普通である。

しかし深読みをしてみる。

果たしてフランシスコザビエルは昇天に対するメタファーなのだろうか？

実は作者が自身の死を考えた時の「裁きの象徴」なのではないかと捉える読み方もある。

亡くなられた方の葬儀に際して、作者が自身の今までの行いや、過ち？をじつと振り返りながら自問自答しているのだとしたら、その方が川柳としては面白いし納得する。見送る「ときの」ではなく、「ことの」との表記が、

その意味性をより強く表している。

少々意地悪な深読みかも知れないが…。

無人駅

おかじょうき川柳社会員雑詠集

★無人駅2月号間賞

わたくししの四国あたりをなぞる人

米山明日歌

熊谷冬鼓

〔くまがいとうこ・青森県青森市〕

蕊を切る百合の叫びに蓋をして
引きつったまんまで夜を刻んでる
この先につい腕組みをしてしまう
ゆで卵つるんと正念場は抜けた
たくあんの上っぽとカップラーメンは

先月号のお気に入り

三月月はうるさいし 満月はネクラだし 吉田吹喜
心の声が洩れてますよ

香田龍馬

〔こうだりょうま・青森県大鰐町〕

戦争は決してしない月が好き
起爆剤と知らずポッケに持ち歩く
太陽に好かれるタイプです ワ・タ・シ
欠点を愛せるタイプと思つたが
天までの道程歩く急がずに

先月号のお気に入り

斎藤泰子

〔さいとうたいこ・秋田県大館市〕

特注の時間が来たよ踊ろうよ
赤い靴踊らされてる訳じゃない
ここからは泥水澄んでいく時間
倦怠期春のうらがが突き刺さる
さよならなら焚き火の薪が切れました

先月号のお気に入り

劇業になろうか水に戻ろうか ひとは
いつだって二択。今日は劇業にしてほしい気分。

笹田隆志

〔ささだたかし・青森県青森市〕

オロオロと掘つては埋める自然薯
土壇場で投げてしまった遺言書
ボロボロのスパイクにつく甲子園
原発の葬式で逢う恋がたき
湯たんぽを抱き三角屋根に棲むモグラ

先月号のお気に入り

城後朱美

〔じょうごあけみ・福岡県八女市〕

パトカーに会うとオタオタしてしまう
スピードは出ていなかったほつとする
赤信号お巡りさんに見とれてた
アクセルじゃなく急ブレーキを踏んでいた
パプリカ歌う一寸先は闇である

先月号のお気に入り

悔恨を詰めてふくらむ三袋 高橋星湖
私にとって悔恨は何だろっ？三袋には幸せを詰めよう。

須藤しんのすけ

〔すとうしんのすけ・青森県弘前市〕

本日はお日柄も良く山笑う
砕かれし鰯の骨にある怒り
人肌の乱歩の椅子の猫の黒
明日逝くホタル千匹安の川
一人二役「いいね」と「死ね」の降る玉座

先月号のお気に入り

座椅子から亡父の昭和が立ち上がる 斎藤泰子
奇を衒わず、素直な力強さと威厳を感じます。このよつ
な句も大好きです。

高橋星湖

〔たかはしせいこ・青森県むつ市〕

令和の和きつと平和の和ですよね
前向きに生きる覚悟で眉を画く
どうしよう貰った年の置き所
海は涙の粒々でできている
白鳥は帰心の高ぶり隠しきる

先月号のお気に入り

瀧尻善英

〔たきじりよしひで・青森県八戸市〕

肉を食べ嘔もつきます僕にんげん
本体は何だったでしょ囁りすぎ
幽体離脱宇宙の果で散歩する
魅了する美魔女に勝てる筈がない
レプリカが余裕で本物喰うつちまい

先月号のお気に入り

十一匹の猫にストーカーされてる 向山タエ子
三戸町の馬場ねこ。悪戯好きのトラねこ大将たちにストー
カーされたと考えればソツとします…。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

渴くまでとおし番号貸しておく
ジャージー牛一頭分が野火でいた
練り辛子何周分の罰ですか
どろどろのゴーン元会長と寝る
初場所を一升ビンの底でみる

先月号のお気に入り
正しいも正しくないも屁ですから 奈良一艘
へえーそうですか。解りました？あまり真剣に考えちゃ
いけないのかな。かもね・・・

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

そろそろ土にかえつてもいいですか
金平牛蒡 母国を褒めたたえん
得意分野 感情移入 女坂
ふるゝい遮断機があるのは御存じ？
赤ちゃんが怖い中年女性です

先月号のお気に入り
桃色の下着自由に歩きたす 勘右衛門
「束縛」という言葉が大嫌いな私。自由・自由・自由だ

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

新年で全てリセットしたはずが
年末に痛めた肘が治らない
年頭に刻む昭和九十五年
おみくじに他人に尽くせと書いてある
新春のベイビーばぶこも母になる

先月号のお気に入り
五七五わたしを閉じてもらえない 斎藤泰子
了解ですー後に続きます。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

缶詰も無視されてるとエスケープ
とろとろになるまで煮てる親の愛
アヒージョがしょう油顔って知ってるか
薪割りがうまく割れたら別れよう
ランタンもランプも空を見上げてる

先月号のお気に入り
「まだしてないの？」というマトリョーシカ S in
まだしてないの？という問いかけがたまに聞こえてる。

月波与生【つきなみよじょう・宮城県仙台市】

三十八度線を曲芸師と歩く
打楽器に遺書しのばせて金鱗湖
異端者になるまで本を積み上げる
破水音聞く夜ガムは噛んだまま
雄蕊みな疼く引つ越しする前夜

先月号のお気に入り
ひとひとり見送ることのフランススコザピエル 土田雅子
後半のなげやり感じがいい。淑女は「ハゲ」とか絶叫し
ない。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

平凡が貼り付いている足の裏
頬杖を貸してくれたら考える
シロップをかければ溶ける怒り肩
囲われたインコの宇宙抒情的
いい天気一緒に笑おう酵母菌

先月号のお気に入り
宵宮で往生際を買って来た 村井規子
買って来た往生際をどこでどう使つたんでしょうねえ。聞
きたい・・・。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

団塊たちが乾燥機で漉れる
ワープしてゆく火垂るの墓々鰻屋へ
タピオカが逢いたいなんて言ってくる
おっちゃんのパルサミコ酔的股間
せり鍋と旧約聖書とロビンギャと

先月号のお気に入り

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

コンビニのトイレを借りたナキウサギ
覚めやらぬ海からキミへうそひとつ
もうひとついかがですかとたなごころ
夜更けから孵化した子亀見えますか
筋のないところから餌食になった

先月号のお気に入り
お医者様に聞き返してはなりません 熊谷冬鼓
実感。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

さてそのあきらめているクレーン車
カステラの箱から長い夢になる
神さまはたまにびっくり水を差す
思っても仕方ないことすりガラス
ウンボならきつとひとりですりガラス

先月号のお気に入り
塩むすびたかたかたがと生きてきた まきこ
その強さがつらやましいです

まきどり【まきこ・青森県青森市】

暴走のエンドロールが終わらない
南国で楽器奏でているゴリラ
つり橋ゆらり嫌味な奴と言われても
そろりそろり進めばやつと崖つぶち
シャボン玉弾けて月になりました

先月号のお気に入り
三日月はうるさいし 満月はネクラだし 吉田吹喜
ネクラでもうるさくても月が好き。

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

純ココアストープからのカメハメハ
晴天の冬の日だった万華鏡
おしゃべりな猫だがニャアとは言えない
雪達磨の帰るお家はどこですか
冬の日の屋根から雫コンサート

先月号のお気に入り

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

1月の雪はわずかにあたたかい
3月の雨もおそらくあたたかい
のしかかる雲は2月のど真ん中
雷を落としてサツと逃げようか
花吹雪のつぺらぼうになる予感

先月号のお気に入り

向山タエ子【むこうやまたえこ・青森県青森市】

鏡見た山姥がベソかいている
逃げるほど追いかけてくる虎落笛
じきに死ぬんだ特上ウナギ喰つとこか
濡れたコート被り火中の恋拾う
ボロボロの平常心に継ぎ 当てる

先月号のお気に入り
病むか枯れるかジタバタと雪になる 吉田州花
今、正にこのような心境で生きております。願わくば槽
の花のようにポトンと散ってほしいは……

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

ハミガキのチユウブしぼり切り鐘をさく
えんぴつを削りつづける発芽まで
玄関の鏡にうつる曲がった絵
親子井好きだった夫の三回忌
寒い日はあつい甘酒母匂う

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

私の脳が揺れているから大地震
ハサミ一丁使いこなして月を切る
かすり傷入道雲が膨らみます
お釈迦様まだありますか蜘蛛の糸
男と女どっちがエライじゃんけんぼん

先月号のお気に入り
癌病棟へ天使の梯子が降りている むさし
そつなんだ〜安心しました。

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

むかし海だったところに置くピアノ
君を追うシャーペン挟めない膝で
コロナウイルスあんだの来るとこじゃないってば
小正月でなければ月に音がない
本日は花柳流の骨密度

先月号のお気に入り
六十四歳に責任持てますか 城後朱美
ドキッとしました。

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

人間が嫌いになった日の電話
誰がどう言おうとデコボコ道歩く
北極星君もポツンと一軒家
賢者にも愚者の肩にも春の雨
だまし舟にだまされて幸せでした

先月号のお気に入り

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

早起きを愛でるが如く有明の月
宿題はやったし雨乞いはしたし
演説は苦手地酒にのめり込む
化かし合いやめて青空倍返し
古稀なんて他人事だったはずなのに

先月号のお気に入り

次々と亀が追い越す それでいい むさし
ゆっくりに歩こう青森県！だもんね。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

暖冬のホップステップ映画館
月光の雫がたまるペンの先
この世かなネジの締め方弛め方
晩学の森をさまよう蛭蝓
今日なりの無明を咲いて露の臺

先月号のお気に入り

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

成り行きにまかせておけぬ最寄り駅
この窓を曇らせている冬の虹
悲しみにもたれたままの白内障
返します うぶ毛の中の未来まで
音読の母音の響く煮大根

先月号のお気に入り

本棚のここがひまわりここが水 きたさぎ彼句吾
わたしは、ここが桜で、ここからが沼です。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

旅立った人はいよいよ紫に
わが骨の落武者となりギギギ
かかる世の大つごもりの逢瀬かな
ザラザラの組板買った気付かずに
渋滞の医院バス停五つ先

先月号のお気に入り

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

ワタクシをワーワーワーって吹っ飛ばす
ギヤアギヤアとイナイナイバア、で、シーソー
蛾だぞオイ 不自由をキラキラさせる
しおしおと小振りの扇子 首はブルー
ぎゃふんぎゃふんトイプードルに鳴き勝つ夜

先月号のお気に入り

失礼と無礼にかける味の素 小林茂子
振りかけるのが味の素 というところが絶妙。

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

窓あけて月がたまごを置いている
哀しくて悔しいほどに良く眠る
数学にカピ算数は磨きたて
チョコレートひと箱分の脳作業
和訳したオペラを歌う雪おんな

先月号のお気に入り

たてたてよこよこ延命治療拒否 守田啓子
つまり、全部ってことですね。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

たじろいでみせると躍る捜査網
的はほら百年経った梅の種
挨拶が御座なり骨のない梢
自転車を手で挙げていますから
刃毀れと笹搔き牛蒡に挟まれて

先月号のお気に入り

月に浮く言葉をおいていった人 米山明日歌
麗しい日本語、情景にうつとし…

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

三層になつて暮れのエレベーター
落日のシンクペーション眼科歯科
父と子の永久螺旋コルク抜き
規制線無視してカレーパンがある
局部的システムダウン栗最中

先月号の
お気に入り

先月号の
お気に入り

勘右衛門【かんえもん・神奈川県横浜市】

秒針のもう止まってしまいたいざくり
羊羹は洪茶の悩み聴いている
切り上げでぎりぎり薔薇になりました
ずっと先まで凍えてしまふ夜だった
特大のグレーのパンツ穿くネズミ

むさし【むさし・青森県蓬田村】

雪がない！背中が羽がむず痒い
気をつける楽器の箱が飛んで来る
渡ったことをみんな忘れてしまふ橋
月の夜は月にささやく雪の花
星降る夜だドライ・マティーニ二つくれ

先月号の
お気に入り

生き方の一つとしては粉山椒
わたしの理想の生き方です。こつありたいといつも思っ
ています。

奈良一艘

ファッションショーですか形見分けですか
形見でも、着物を見ちゃうとつい袖を通したくなるのよ
ねえ
土田雅子

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

黒雲なんて押し上げちゃおうソプラノで
満天の星だちくちくしてゐるもの
どっちみち寒い独りに着く途中
涙も傷もすべて磨いて權にする
ことだまも汀で尽きてしまつたわ

絡まって
いるのは

2月1日（土）午後1時～ 青森市民ホール4階リハーサル室

▼出席者（16名）

むさし・奈良一艘・北野岸柳・田中薫・守田啓子・渡邊こあき・葉閑女・
笹田隆志・木村美映・土田雅子・まきこ・吉田吹喜・まみどり・
夏草ふぶき・小野五郎・熊谷冬鼓

▼投句者（13名）

米山明日歌・笹田かなえ・石橋芳山・村上あつこ・勘右衛門・鳴海
賢治・田久保亜蘭・月波与生・城後朱美・坂本清乃・村井規子・き
さらぎ彼句吾・須藤しんのすけ

おかじょうき川柳社
2月例会

席題 『スリッパ』

青森県青森市 まきこ選

【佳作】

ひたひたと武漢のスリッパやってくる 熊谷冬鼓
 スリッパが消毒液を持ち歩く 夏草ふぶき
 レバノンの葬列スリッパを履いて行く 小野五郎
 妻も子も出かけスリッパ大はしゃぎ 葉 閑女
 スリッパが雪のない山滑ってる 笹田隆志
 病院のスリッパ愚痴をひきうける 渡邊こあき
 スリッパを買うと不揃い茄子五本 小野五郎
 スリッパの摩耗パンツの緩み日章旗 奈良一艘
 スリッパが死んだふりしている病院 夏草ふぶき

桃色のスリッパ家出されたまま

北野岸柳

モナリザのスリッパと冬のハエタタキ

むさし

スリッパの片割れだけが増えていく

夏草ふぶき

火葬してスリッパだけが焼け残る

笹田隆志

内定通知 春のスリッパ空を飛ぶ

吉田吹喜

先生のスリッパほんと痛かった

吉田吹喜

【秀逸】

スリッパにこつそり仕込む猫パンチ 土田雅子
 合掌土偶にスリッパ履かせたのは誰だ むさし
 わたくしは便所スリッパ…かも知れない 奈良一艘

【特選】

春うらら見相にスリッパ足りません 熊谷冬鼓

* 哀しいですね。事件がないことを祈ります。

席題 『スリッパ』

青森県青森市 小野五郎選

【佳作】

病院のスリッパ愚痴をひきうける 渡邊こあき
 ひたひたと武漢のスリッパやってくる 熊谷冬鼓
 春うらら見相にスリッパ足りません 熊谷冬鼓
 スリッパをはくと踊ってしまう癖 まきこ
 真四角なスリッパ清く老いていく まきこ
 スリッパが消毒液を持ち歩く 夏草ふぶき
 スリッパが今日も夢見る花畑 葉 閑女
 火葬してスリッパだけが焼け残る 笹田隆志
 左からスリッパ右からのウーロン茶 木村美映

スリッパの逆襲雨の日が続く

葉 閑女

スリッパが泣いちゃいけないなどと言う

むさし

先生のスリッパほんと痛かった

吉田吹喜

合掌土偶にスリッパ履かせたのは誰だ

むさし

真夜中のスリッパ誰を連れていく

まみどり

スリッパの片割れだけが増えていく

夏草ふぶき

【秀逸】

スリッパの左は「すり男」右は「つぱ子」 奈良一艘
 わたくしは便所スリッパ…かも知れない 奈良一艘
 モナリザのスリッパと冬のハエタタキ むさし

【特選】

スリッパの摩耗パンツの緩み日章旗 奈良一艘

* わが国の現状を鋭く切り開いて見せた。まさに川柳らしい表現。

宿題『区』

青森県弘前市 田中 薫 選

【佳作】

かみさまが四区と五区を走ります
 着地点サアーここから 女偏
 一区切りして満月に餌をやる
 生まれ落ちたところが特別区域
 臍までが俺で上は立て看板
 「廃品」に区分されてる股関節
 区分せと三角形を持たされた
 ここは地獄の5区1丁目1番地
 目に見えぬもので区切られてる差別
 一丁目に団塊世代集合だ
 区切られた窓からのぞく月明かり
 B型で働き者で遊び好き
 困ったな総理のワクに入ってる
 落とし蓋される老後を仕切られる

鳴海賢治
 坂本清乃
 田久保亜蘭
 城後朱美
 きさらぎ彼句吾
 む さ し
 坂本清乃
 村上あつこ
 城後朱美
 坂本清乃
 木村美映
 葉 閑女
 小野五郎
 守田啓子

欲望と汗と涙の特別区

区切りからはみ出してしまふ好奇心
 逃げ出した女が潜る禁漁区
 傾いた区から不吉なオノマトペ
 陣取り合戦素早く空を区切る指
 女だか女じゃないか舐めてみる

【五客】

区役所の裏庭にある処刑場
 禁猟区やっぱり君を待っている
 大正区昭和区そこから先の鼻づまり
 危険区域はトランプの鼻の穴
 区切りよく百まで生きてやるつもり
 【人位】
 母の句に立ち入り禁止区域あり
 【地位】
 葬式まんじゅうで括弧は閉じられた
 【天位】
 言い訳に千個の句読点を打つ

* 人生ってそんなもんですよね。

田久保亜蘭
 石橋芳山
 石橋芳山
 吉田吹喜
 吉田吹喜
 奈良一艘
 ま き こ
 まみどり
 小野五郎
 土田雅子
 奈良一艘
 村井規子
 きさらぎ彼句吾
 須藤しんのすけ

宿題『くくる』

青森県蓬田村 むさし 選

【佳作】

満月が死ぬときククルククパロマ
 人生を締めくりたい衣紋掛
 孔雀よりカラスになるか腹くくる
 金偏でくくる恥知らずの政治家
 僕だけの愛だときつく夢しぼる
 スパイクに括りつけてる甲子園
 トロピカルなくくりかたして発情期
 かすみ草を束ねてたのは偏差値
 腹くくる免疫力はありますか
 しめくくるホク口の位置をたしかめて
 字余り句跨がり ゴム紐がゆるむ
 ママちゃりで髪をくくった山姥参上
 まだ何も飲んでないのに縛られる
 赤い糸でくくる後ろめたいとこ

奈良一艘
 笹田隆志
 ま き こ
 葉 閑女
 北野岸柳
 笹田隆志
 石橋芳山
 きさらぎ彼句吾
 鳴海賢治
 米山明日歌
 きさらぎ彼句吾
 田 中 薫
 小野五郎
 須藤しんのすけ

田久保亜蘭

石橋芳山
 石橋芳山
 吉田吹喜
 吉田吹喜
 奈良一艘

ま き こ
 まみどり
 小野五郎
 土田雅子
 奈良一艘

村井規子
 きさらぎ彼句吾

須藤しんのすけ

愛でなんかくくるから 息苦しい
 仮の世の括弧を閉じる目を閉じる
 古新聞くくると騒ぎ出す訃報
 針金でくくられてる予定表
 白状を束ねる風が通る場所
 一緒にするなオレは一人で歩けるぞ

【五客】

閉じ括弧探して春に来てしまう
 病歴の括弧書きから赤くなる
 消費期限間近の棚に移される
 花束にされる一輪でいたいのに
 くくるには腕が一本足りません

【人位】

アオモリ藍に染まった方はこちらです

【地位】

包囲網消えて辺りは雪野原

【天位】

塩麹でくくる血縁という縄梯子

* 塩麹って、こんなとこに効てるのか…(汗)

守田啓子
 渡邊こあき
 土田雅子

宿題『自由詠』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

本日をもってEJ 離脱女を離脱
 小銭入れの中にもやってきた令和
 親殺し子殺し地球温暖化
 ブラジャーを外す空気が溶けてゆく
 反省を空から眺めてみますか
 レプリカにしますあの日の鎮魂歌
 ゼロの自乗 人体模型雨がふる
 通勤定期で死火山を見に行く
 予定のない土曜借金取りが来る
 結局は素数にもどるトランクス
 きら星がにじん家で家に帰れない
 フルハウスだった男が背負う沼
 ラーメンはネギだくあなたとは他人
 降りしきる時が邪魔して帰れない

土田雅子
 葉 閑女
 土田雅子
 須藤しんのすけ
 田中 薫
 まきこ
 米山明日歌
 月波与生
 城後朱美
 奈良一艘
 木村美映
 夏草ふぶき
 守田啓子
 むさし

本日の憎悪45口径

けだものようにかぶさる鬱がある
 噛み合わぬどうしようもない時間たち
 愛されているはずだった寒立馬
 ○だったのか×だったのか七十年
 気にかけて下さいもつと丸くなる

【五客】

人・人の闇 電車で揺られてる
 底抜けに明るい今朝のおみおつけ
 如月のこぼれるものに蓋をする
 もたれたら振りかけられる塩こしょう
 立ちこぎをするたび 敵が増えていく

田中 薫
 鳴海賢治
 守田啓子
 まみどり
 米山明日歌

【人位】

真つ白な句点なんだな喉仏

きさらぎ彼句吾

【地位】

俺のことだったかポツンと一軒家

むさし

【天位】

絡まっているのは昨日のそもそも

米山明日歌

* 曖昧なものとEJのようについで。

打率

【選句率】※規定投句数は最大可能投句数の50%

順位	氏名	打率
1	守田啓子	0.667
2	米山明日歌	0.611
2	きさらぎ彼句吾	0.611
4	まきこ	0.583
4	むさし	0.583
6	奈良一艘	0.556
7	田中薫	0.467
8	熊谷冬鼓	0.400
9	まみどり	0.389
9	城後朱美	0.389
9	土田雅子	0.389
9	吉田吹喜	0.389
9	須藤しんのすけ	0.389
14	田久保亜蘭	0.333
14	石橋芳山	0.333
14	鳴海賢治	0.333
14	坂本清乃	0.333
14	小野五郎	0.333
19	木村美映	0.278
20	月波与生	0.222
20	勘右衛門	0.222
20	夏草ふぶき	0.222
20	笹田隆志	0.222
20	葉閑女	0.222
20	北野岸柳	0.222

本塁打

【3点句数】

順位	氏名	本数
1	きさらぎ彼句吾	3
2	吉田吹喜	2
2	米山明日歌	2
2	守田啓子	2
2	須藤しんのすけ	2
6	奈良一艘	1
6	まきこ	1
6	田中薫	1
6	むさし	1
6	土田雅子	1
6	村井規子	1
6	渡邊こあき	1

打点

【総得点】

順位	氏名	打点
1	きさらぎ彼句吾	18
2	米山明日歌	17
2	守田啓子	17
4	奈良一艘	15
5	吉田吹喜	12
6	まきこ	11
6	むさし	11
6	須藤しんのすけ	11
9	田中薫	10
9	土田雅子	10
11	まみどり	9
12	熊谷冬鼓	8
12	坂本清乃	8
14	田久保亜蘭	7
14	城後朱美	7
14	鳴海賢治	7
17	月波与生	6
17	石橋芳山	6
19	勘右衛門	5
19	笹田隆志	5
19	木村美映	5
19	小野五郎	5
19	渡邊こあき	5
24	夏草ふぶき	4
24	葉閑女	4
24	村井規子	4
27	村上あつこ	3
28	野沢省悟	2
28	北野岸柳	2

おかしょうき

三冠王への道

【三冠王への道】本社句会宿題詠で、打率（抜句率）・打点（総得点）・本塁打（3点句の数）を競うもの。



【6】吹喜・啓子・隆志・五郎・薫・冬鼓
ぎぎぎぎと月は傾き冬の本 むさし

【3】吹喜・まきこ・冬鼓
ぐわんぐわん鳴って届いた段ボール 渡邊こあき

【3】まみどり・美映・むさし
へらくつと笑うパンケーキのバタッ 吉田吹喜

【3】啓子・こあき・雅子
ギラギラのあとに来るもの波の音 鳴海賢治

【3】一艘・美映・薫
しゅくしゅくと薬ボタン雪を受け入れる 笹田かなえ

【3】隆志・ふぶき・まみどり
ほろほろと桜 長男の嫁でした 奈良一艘

【2】閑女・まきこ
ぐるるんるん忙しくって楽しくて まみどり

ほぼほぼの季語でしたたかなコロナで
ぐぢゅぐぢゅでウィルスフリーの右の鼻

これまでも「研究吟」を1句出してもらい、皆で合評していた。合評することで句の読みが多面的になり作句表現に幅が出るだろうと、新人もベテランも一緒に学ぶ場と考えていた。ただ研究吟って何?どんな句を出せばいい?そんな意見もあった。そこで今月から「川柳ラボ」とし、毎月「課題」ではないざっくりしたテーマをミッションとし、それに沿った1句を出してもらったこととした。普段でもオノマトペを使って作句はしているが、果たしてそのオノマトペは効果的か、凡庸になっていないか。今回独自のオノマトペを使ったり、組み合わせを工夫した句もあったが、オノマトペに引きずられ、句意が見えなくなってしまう句も何句もあったよつだが...どうだろう。(冬鼓)

Senryu Laboratory 川柳ラボ

【テーマ】
「オノマトペを使った句」

【2】ふぶき・五郎

ゴッホゴッホゴッホとひまわりがさく 月波与生

【2】一艘・むさし

カタカナ語ごにゅつと変換して閉じる 熊谷冬鼓

【1】閑女

ドカーンバキューンと冬の終わる音 木村美映

【1】雅子

ペラペラの男ばかりが寄ってくる 夏草ふぶき

【1】こあき

キリキリとカタカタカタと出奔す 石橋芳山

【0】

暖冬がぶらりぶらりと顔見せる
チツクタツク思考力が泳いでる
しゅるしゅるとあべのハルカス越えて飛ぶ
へらへらと弁解答弁するなまこ

— 参加者募集しています —

「川柳吟行会 ぼ」

— 令和二年初吟行は新市庁舎 —

渡邊こあき

令和二年、「ぼ」の初吟行は、青森市役所新庁舎へ。今は冬？ここは青森？と言いたくなるような晴天。陽光を浴びてガラス張りの新庁舎もキラキラ輝いていました。一階のロビーはイベント広場になっていて、ちょうどツインシティ30周年記念の青森市と函館市の小学生の絵がところせましと飾られていました。これからいろいろなイベントが開催されることでしょう。楽しみです。

昨日今日余白に藍を少しずつ

恵子

本日、一番票の入った句。新庁舎の壁に、さりげなく飾られていたあおり藍のタペストリー。藍の品の良さが句に。下五にもっとインパクトがあった方がいいという声もありました。

透明のビルに泳げない金魚

さち

ガラス張りの庁舎は、なんだか大きな水槽のよう。スタートしてまもない庁舎なので、仕事をしている職員も訪れた私達市民もどことなくぎこちない。

しゃれなりんご箱でした。

新庁舎の廊下20才の私

こあき

新庁舎の建った場所は、昭和57年ころまで市民会館だったところ。フォーク・クルセダーズ、ダウンタウンブギウギバンド、杉村春子の「女の一生」、緒形拳の「王将」、寺山修司の天井桟敷の舞台、地元劇団のつがるミュージカルス・・・。突然20代のころの私がフラッシュバック。

白壁に津軽訛が響かない

冬鼓

庁舎はお城のようにも見える。やっぱりまだ馴染めない感が。

天国へ行けるりんご箱あり☑

五郎

枝打ちに耐えて優しい箱になる

啓子

枝打ちの父粉れこむ杉花粉

さち

木箱積み上げて総務課管財課

啓子

「川柳吟行会 ぼ」4月吟行

【吟行日時】4月15日(第3水曜日)

【吟行場所】東奥日報新町ビル3階ホール

「写真展 オードリー・ヘプバーン」

(入場料900円)

【句会場所】アウガ5階 2時半〜(各自鑑賞後に集合)

【句会参加費】100円

皆さん、りんご箱のオブジェに目をひかれましたね。津軽のりんご箱というよりニューヨークが似合いそうなお



十和田たてがみ川柳会1月句会

【時】令和2年1月18日(土)

【所】十和田労働福祉会館

【出席者】漆館ミノリ・久保あざみ・木村奈生美・

齊藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・福田芳詔・

村上昌子・高田幸柳

【投句者】磯島雅男・城後朱美

■席題『ノック』

高田 幸柳 選

【平抜き】

青空にノックをされて歩き出す

久保あざみ

ノックなしそんな仲にもある礼儀

齊藤 蛙井

あの世へと終楽章をノックする

齊藤 蛙井

まだ乙女ハートノックの名画観て

村上 昌子

懸命な打撃の汗に損が無い

木村奈生美

地球危機ノック一段強くなる

齊藤 蛙井

休日には心にノックシヨパン聞く

久保あざみ

「しつかりとノックしてよ」とまだオンナ

瀧尻 善英

春風が心の扉ノックする

瀧尻 善英

【秀逸】

ドアノックして開かせる胸の鍵

木村奈生美

ノック音聴いて人柄確かめる

木村奈生美

【特選】

ノックなどいらぬ君との仲だもの

瀧尻 善英

■席題『ノック』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

ノック知事パンパカパーンセクハラで

福田 芳詔

ノックする前に愛犬玄関へ

高田 幸柳

お隣のノックの音に耳澄ませ

高田 幸柳

誰だろう夜更けのノック身構える

佐藤まさあき

娘の部屋で叱られているノックなし

佐藤まさあき

懸命な打撃の汗に損が無い

木村奈生美

ノック音聴いて人柄確かめる

木村奈生美

雨風に野次られ淋し空家の荷

村上 昌子

ノックなしそんな仲にもある礼儀

齊藤 蛙井

【秀逸】

あの世へと終楽章をノックする

齊藤 蛙井

チャンピオンノックアウトを予感させ

佐藤まさあき

【特選】

休日は心にノックシヨパン聞く

久保あざみ

【特選】

被災地の血糊を神は見ているか

瀧尻 善英

■宿題『糊』

久保あざみ 選

【平抜き】

障子貼り直して心の鬼退治

磯島 雅男

さみしくてステイック糊も乾き出す

城後 朱美

糊しろにルージユがついたラブレター

瀧尻 善英

ここに居ますヘルプカードを貼ってます

村上 昌子

糊張りが似合う亡き母割烹着

佐藤まさあき

糊づけで封じた想いが胸に棲む

齊藤 蛙井

人間になれず糊代踏み外す

高田 幸柳

切手印紙だれのアイディア舐めるだけ

福田 芳詔

勝ち組のシャツに折り目が効いている

瀧尻 善英

愛しいと糊代までも書き連ね

齊藤 蛙井

【秀逸】

手作りの糊で昭和の障子張り

城後 朱美

子や孫に舌切りすずめ語り継ぐ

漆館ミノリ

■宿題『鈍い』

齊藤 蛙井 選

【平抜き】

のろのろの足で泣く暇などは無い

村上 昌子

亀さんに教わる人生マイペース

佐藤まさあき

焦がれても近過ぎるから気付かない

高田 幸柳

川柳はいつもギリギリ鬼あざみ

久保あざみ

秒針に取り残された亀の足

瀧尻 善英

ワンカップ鈍行列車の一人旅

佐藤まさあき

のろまでも遠回りでも福は来る

高田 幸柳

鈍感な男がもう赤い薔薇

城後 朱美

人脈の風を読めずにまだ課長

瀧尻 善英

【秀逸】

聞こえない見えない方が生きやすい

城後 朱美

忘れたい過去がのろのろ付いて来る

木村奈生美

【特選】

都会では生きて行けないカタツムリ

久保あざみ

□ 2020.04.10 ㄨ カモミール句会設立五周年記念誌上句会

【兼題】2句詠『自由吟』【選者】男女各3名による合計6名による共選 柳本々々(東京都在住・無所属)／細川静(青森県在住・「川柳カモミール句会」会員)／植崎進弘(大阪府在住・「連衆」会員)／高鶴礼子(埼玉県在住・「ノエマ・ノエシス」主宰)／なかはられいこ(岐阜県在住・「川柳ねじまき」発行人)／三村三千代(青森県在住・古典文学研究者)【締め切り】2020年4月10日(金)(当日消印有効)厳守【参加費】一口1,000円(切手不可・小為替等で)／発表誌呈 ※お一人何口でも参加可能です。【投句用紙】自由(郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して下さい)【投句先】〒031-0056 八戸市新荒町7 滝沢方 笹田かなえ TEL 090-2998-7277【賞】選者特選の各1名に青森県産のさくらんぼ「ジュノハート」一箱進呈(ジュノハートとはハート型のさくらんぼで1粒350円×12粒)※他に入選数の多い作品には青森県特産品を予定しております。発表は7月上旬発行予定の「川柳カモミール 4号」誌上にて。

□ 2020.04.15 ㄨ 第44回全日本川柳 2020年秋田大会

【大会日時】2020年6月14日(日)午前9時開場【会場】秋田キャッスルホテル(秋田市中通1-3-5 電話018-834-1141)【交通機関】JR秋田駅西口下車、徒歩10分/JR秋田駅西口下車、バス「木内前」下車徒歩1分【宿題】第一部(事前投句4/15締切)一般部門「田」山口まもる選(山形)／「重い」新家完司選(鳥取)／「拓く」安藤波瑠選(東京)／「あふれる」大楠紀子選(奈良)専用用紙のない方は2×16cmの句箋1枚に1句を記入、各題2句無記名。封筒の裏面に住所、氏名明記。【投句料】1,000円(定額小為替・現金書留)を同封又は郵送または下記郵便振替口座へ送金のこと(当日消印有効)【投句先】〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11 ステップイン南森905号一般社団法人 全日本川柳協会宛 電話06-6352-2210 Fax 06-6352-2433 郵便振替口座 0097-9-3575【講演】「ことばの力 秋田の魅力」講師 浅利香津代様【宿題】第二部(当日投句・11時締切)「歌う」大石一粹選(秋田)／「好奇心」矢沢和女選(兵庫)／「発見」いしがき鉄選(東京)各題2句当日配付の句箋に記入【第二次選者】赤井花城(兵庫)／田中新一(大阪)／安藤紀業(東京)／高瀬霜石(青森)／鈴木順子(愛知)【参加費他】4,000円(参加費2,000円・昼食・記念品)【懇親会】表彰式典・大会終了後同一会場(4階放光の間)で【参加費】8,000円(会食・アトラクション)／大会・懇親会の申込は郵便振替と申込葉書を送付する事【大会・懇親会の参加費送金先】4/15 ㄨ切郵便振替口座番号 02230-9-127870 全日本川柳秋田大会実行委員会【主催】一般社団法人 全日本川柳協会／全日本川柳秋田大会実行委員会

■宿題『乗る』

互選

- ① 育休の波に乗りましょ男達
- ① 乗り物で苦手は馬と口車
- ① 還暦の波に乗ります鬼あざみ
- ① 策略に乗ったつもりが泥の船
- ① 春風にこっそり乗って花粉症
- ② オレオレに乗せられ老いの丸裸
- ② 此処からは巣立ち始めて乗る列車
- ③ 優しさへ乗り過ぎていた泥の舟
- ③ 青春の力溢れてペダル漕ぐ
- ③ 新弟子が希望を胸に乗る秤

- 久保あざみ
- 漆館ミノリ
- 久保あざみ
- 高田 幸柳
- 瀧尻 善英
- 瀧尻 善英
- 木村奈生美
- 木村奈生美
- 佐藤まさあき
- 佐藤まさあき
- 佐藤まさあき

十和田たてがみ川柳会3月句会
 【時】3月21日(土)午前10時00分から 【所】十和田労働福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『必死』久保あざみ選／『比較』斉藤 蛙井選 【互選】(二句詠)『紐』当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入) 【席題】一題(二句詠・共選)／選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名 【投句先】〒034-0049 十和田市西二十二番町2-1 21 十和田労働福祉会館 高田幸柳

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階
 【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時～14時半
 【講師】おかじょうき川柳社 代表 むさし
 【受講料】1回 500円

- 3/10(火)「食べる」 □ 3/24(火)「静か」 □ 4/14(火)「事件・事故」
- 4/28(火)「役」 □ 5/12(火)「約束」 □ 5/26(火)「人形」

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3 むさし宛／TEL.0174-27-2008／E-mail：hmusashi@r66.7-dj.com

■会費拝受（1月受付分） ※太字は新会員

一帆（秋田県）/ 西恵美子（宮城県）/ 城後朱美（福岡県）/ 月波与生（宮城県）/ **村上てる**・滋野さち（以上青森市）/ 白戸まつ子（つがる市）/ まみどり（黒石市）/ さいとうみき・**田中薫**（以上弘前市）/ 旅男（五所川原市）/ ひらく（蓬田村）

■おかじょうき川柳社 会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 FAX.017-723-5696

--- 終着駅 Sin ---

◆新型コロナウイルスの影響で、おかじょうき川柳社も3月句会を自粛することとなった。十数人の集まりとはいえ、東北新幹線を利用したであろう感染者が仙台で見つかったことを踏まえれば、ここ数週間の公共交通機関の利用はなるべく控えたほうが良さそうだ◆この騒動のなか、SNSでは様々なデマが広がっている。デマなんてものは、昔からあるものだが、スマホ社会のいまは拡散する広さも早さも格段に大きい。中でも、トイレトペーパーが無くなるというデマに踊らされ、買い占める人が多く現れた。最近、このような偽情報を疑う人も多くなったが、それでも現実として、トイレトペーパーが棚から無くなることを考えると、買っておかなければならなくなり、また品薄に拍車がかかっ

てしまう悪循環が止めきれない構図となっている。東日本大震災の時のガソリン不足や今回のマスク不足のような光景を目にするたびに、相田みつをの「うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる」の言葉を思い出す。いまのところ、空気感染はしないと言われているのであれば、予防にはマスクより手洗いのほうが効果的で、本来にマスクが必要なのは感染後の飛沫抑制のためと言える。その感染者に必要なマスクが、感染していない人の買い占めで不足し、そのせいでまた感染拡大につながり、一周回って自分の感染リスクを高めるという行動だということが、どうしてわからないんだろう。相田みつお風に言うとしたら、「買い占めたっていいじゃないか 人間だもの」ということなんだろう◆Sin



花束を抱えて真昼野にひた血族や無言で回る洗濯機あらかたの運は使った寝違える百萬遍叶ぬことがありすぎる半日を洗う大きな音させて流水が昇る処に連れてって使つてはいけなはずの爆撃機もかも失くしたような青い空一人ぼっちで一人ぼっちを責めている綱引きの振り子に曇み込まれてく人待ちながら桜の幹に触れているくすり屋の風船挽歌は音も無く整列のきれいな金魚と住んでいる石いくつ投げて海に当たらない灰汁すくう私は必ずつと私ですコンビニの外まで届かない明かり曇りのち晴れのあとでのませご飯放課後の香を綴じてある日記帳偏差値が揺れる妙案のない街角医療ミス現場で読んだ週刊誌誰ですか案山子に石を投げるのは行く先は決めずただ真ん中だけ歩くまぐわうやひたくれないに風を待つ街を出る小さな鈴をぶらさげ大停電やつと心が見えまじした何もかも寒い夏だよ鶴彬ちいさめの月からいつも泣いてゆく着地せよ人間風と手を切つて水呑んで太陽呑んで僕発芽七回聴かせるリリーマールレーン履歴書の斑を北のせいにする叫び声もらさぬように栓がある流水の胎内いつも青い空マンモスと共存をする青い空泥の手で生まされそうであつと揺らしますだから黙つてるフェリー埠頭に雪じつてれば夕陽になれますか性愛や砧の音を引き摺つて芳一の耳によく似た勲章だまばたきの時は永劫かも知れぬふいに噛む指で引火を喰ひ止める六法全書淫らなことが書いてある突き落とす手の感情線が消えている晴天日曜日教室に並ぶ偽物の椅子針箱のまだ騒がしい金ポタン二等辺三角の不脈鬼一匹作り笑いのまま眠る掌の砂を払い落として行く花野自画像を遡上している鯛の目愛すべき人よ全員手をあげる償いはこの闘いを終えて銃はやめて花束持ちなさいふりむけば金平糖の母がいる約束を破つて君はここにいます今からは雑草の顔生きてやるせんねん灸据えてる占拠を六法全書淫らなことが書いてある突き落とす手の感情線が消えている晴天の地球の色で子を包む漆黒になるまで撫でた涙壺濃くなつていく失つた色戦争の色に染め上げられて飢え生きた煙にやつと色がつく濃くなつてく失つたものの色他動詞のように葬列やつて来る無に還るまでの君の寝ぐせもベッドのシワも気がなつて封筒の中で桜は満開に水差しと胃酸が置いてある仏間通動電車で金太郎飴になつてゆく矢弾の下た一つの前頭葉誤りを誰かが食べてくれている住みついた所に蜘蛛の巣を張るう訳あつて静止画像の中にある灯を消せば私の中にある尾花いちよは昨日と同じ量の米この木何んの木起立せよまだすこし木じゃないとこが残つてゐるあきらめて中東あたり流れる本人が見た時は並んでいる並未樹のおんぶバッタの老老介護豆の花産道は善人だけが通る道文通しよう杉の花粉が降る間樹海へと続く現金振込機渚から渚へ書いている手紙昼の月疼く疵など無かるうがダヴィンチの生まれ変わりの蟹に遭う田の中でカカシともめる僕は白ルミノール反応ここから町はずれひと皿の夜をつまんで生き延びる折り返し地点でもらう紙コップ雨続く買つてもいい株のこと歯の抜けた隙からふわり飛行船妻としてリングネームを持つている味わつた後の男のデスマスクまだ消えぬ根雪にきつとある秘密花冷えや帯に短いものばかり酢ダ買つて西アフリカの蝸である綿毛吹く頼れる人のない真昼夢さめて二足歩行のカバになる帰らないつもりで閉めるドアの音村の歴史にアザミカンゾウ土一揆森からの手紙しつとり濡れて着く指先の汚れに気付くご焼香満月が笑う反対者が居ない水が欲しくて少年の日を釣っている冬のデモ蕎麦屋の前にさし掛かる外は雨平凡な日に戻るなり家出願望男の耳が落ちそうで首枷がきつて海を吐きそうだ栓抜きを探す途中の死の話吸って吐いて吸って吐いてる【今度こそ】夜店の射撃で空ばかり狙つてる継ぐ継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になつたす

おかじょうき川柳社
<http://okajoki.com/>